

第55回呉地区柔道大会 祝辞

日時：令和5年9月17日（日）9時00分～

場所：シシンヨーオークアリーナ

本日は、第55回呉地区柔道大会が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

また、中原会長をはじめ、呉地区柔道連盟の皆様におかれましては、平素よりスポーツの振興をとおして、青少年の健全育成や健康で文化的な市民生活に、多大なるご尽力をいただいていることに対しまして、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

柔道は、「柔よく剛を制し、剛よく柔を断つ」を真髄とし、単なる勝利至上主義ではなく、精神鍛錬を目的とする、日本が世界に誇る武道です。

ところで、みなさんは、2016年リオデジャネイロ、2021年東京オリンピック73kg級で見事2連覇を達成した大野将平選手を知っていますか。

勝利後、すぐに喜びを全身で表現する選手も多い中、リオデジャネイロの大会で大野選手は、表情を変えずに、静かに「始め」の位置に戻り、相手の選手に向かって深々と礼をし、畳を下りた後、ようやく笑顔をはじめさせ、うれし涙を流していました。後に大野選手は、オリンピックでの自らの姿を振り返り、「日本で生まれた柔道の美しい側面も見せることができたと思う。」と話しています。

初戦から金メダルを獲得した決勝戦まで派手なガッツポーズを見せることなく、最後まで対戦相手に敬意を払う姿勢を貫いた「柔道家の模範」として世界から喝采を浴び、中学校の道徳の教科書にも掲載されています。東京オリンピックでは、「最大の敵は過去の大野将平」と自分自身を超えていくことを求め、脈々と受け継がれる伝統を背負い、のしかかる重圧をはねのけて、柔道発祥の地・日本でめぐってきた大舞台で見事連覇を成し遂げました。お家芸の柔道で日本男子の連覇は、長い歴史の中でもわずかに4人だけだそうです。

本大会は、幼年の部をはじめ、6つの部門で競技が行われると伺っておりますが、選手の皆さんには、日頃の稽古の成果を存分に発揮され、熱戦を繰り広げる中で勝っても負けても自らの成長が実感できる大会となりますことを期待いたします。

終わりになりますが、本大会の開催にご尽力になりました呉地区柔道連盟をはじめとするご関係の皆様には、改めて敬意と感謝を表しますとともに、本大会のご成功を祈念申しあげまして、お祝いのことばといたします。

皆さん頑張ってください。

呉市教育委員会 教育長 寺本 有伸